表一4 液状化判定手法一覧表

指針·基準名	液状化判定の対 象とすべき土層	液状化の判定方法	液状化強度の求め方
水道施設耐震工法指 針·解説	①25m以浅の飽和 土層 ②平均粒径D ₅₀ が	次式に示すF_が1.0以下である場合に地盤が 液状化するものと判定 する。	液状化強度Rは図-1を用いて求める。 レベル1地震動の場合は γ=5% の曲線を用いる レベル2地震動の場合は γ=10% の曲線を用いる
(社)日本水道協会 1997	2 中均和在D ₅₀ が、10mm以下	FL=R/L ここに、 L:地盤内の各深さに生じるせん断応力を表す指標 R:飽和土層の液状化抵抗力を表す指標	0.6 0.5 0.5 0.6 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7

地震外力の求め方

地震外力Lは次式によって求める。

 $L=K_h \cdot r_d \cdot r_n \sigma_z / \sigma'_z$

ここに、

r。: 等価な繰り返し回数に関する補正係数で、 $r_{n} = 0.1(M-1)$

ただし、Mは地震のマグニチュード(レベル1ま たはレベル2の内陸直下地震については M=7 とする)。

σ₂σ′₂:検討深さにおける全土被り圧及び有効土 被り圧(tf/m[®])

r_d: せん断応力の低減係数(=1.0-0.015z)

定する。

 $K_h=C_z\cdot K_{h0}$

ここに、

C₇: 地域別補正係数(0.7~1.0)

K_{ko}: 地表面における基準水平震度

地盤種別	基準水平震度 K _{h0}		
26 血性 カリ	レベル1	レベル2	
I種地盤	0.16	0.6~0.7	
Ⅱ種地盤	0.20	0.7~0.8	
Ⅲ種地盤	0.24	0.4~0.6	

(4)液状化による地盤ひずみと変位

護岸背後地盤

地盤変位 $D(m) = \varepsilon_{c}(100-x)$

ここに、x:護岸からの距離 $\varepsilon_{\rm G}$:地盤ひずみ

	地盤ひずみ ε _G (%)			
	引張	圧縮		
護岸近傍	1.2~2.0	_		
護岸背後	1.0~1.5	1.0~1.5		

傾斜地盤

細粒分含有率

図-2 細粒含有率と補正N値増分ANの関係

 $D(m)=0.57H \cdot \theta$

H: 液状化層厚(m)

 θ : 地表面勾配(%)

構造物への影響の評価

(1)水平地盤反力係数の低減

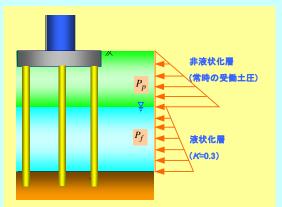
F_値と補正N値(Na)および検討対象深さより表-1のように水平地盤反力係 数を低減する。

表-1 水平地盤反力係数の低減係数

液状化発生に対 する安全率FLの 範囲	地表面から の深さ z(m)	水平地盤反力係数に乗じる低減係数			
		N _a ≦8	8 <n<sub>a≦14</n<sub>	14 <n<sub>a≦20</n<sub>	20 < N _a
F _L ≦0.5	0≦z≦10	0	0	0.05	0.1
	10 <z≦20< td=""><td>0</td><td>0.05</td><td>0.1</td><td>0.2</td></z≦20<>	0	0.05	0.1	0.2
0.5 <f<sub>L≦0.75</f<sub>	0≦z≦10	0	0.05	0.1	0.2
	10 <z≦20< td=""><td>0.05</td><td>0.1</td><td>0.2</td><td>0.5</td></z≦20<>	0.05	0.1	0.2	0.5
0.75 <f<sub>L≦1.0</f<sub>	0≦z≦10	0.05	0.1	0.2	0.5
	10 <z≦20< td=""><td>0.1</td><td>0.2</td><td>0.5</td><td>1</td></z≦20<>	0.1	0.2	0.5	1

(2)地盤の側方流動による外力

護岸線より100m以内の領域については地盤の側方流動の影響を検討する。 地表面における設計震度Khは次式で算 図-3のように非液状化層には受働土圧、液状化層には土圧係数が0.3の土圧 を作用させる。また、土圧は護岸線からの距離に応じて低減する(低減係数 β = 1-0.01x, xは護岸からの距離)。一方、側方流動による変位が推定できる場合 には、基礎構造ー地盤バネ系モデルに地盤変位を入力することによって耐震 計算を行うことができる。



図ー3 側方流動による外力

(3)地中構造物の浮き上がり

下式を用いて浮き上がり安全率FLを算定 する。

$$F_{u} = \frac{W_{B} + Q_{l}}{V_{0} \cdot \gamma_{S}}$$

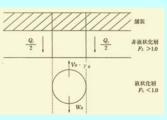
ここに、

W_R:構造物の単位長さ当たりの重量(KN/m)

Q/:非液状化層のせん断抵抗力(KN/m)

V₀:構造物の単位長さ当たりの体積(m³/m)

 γ_s : 周辺土砂の単位体積重量(KN/m)



図ー4 浮き上がりに対する検討